

# 魅力発信！えひめ農業 NOW

令和5年 11 月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、11 月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564




<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

# 目次



|                              |    |
|------------------------------|----|
| 目次                           | 1  |
| 1 1月のトピックス5選                 | 3  |
| いちご栽培における農業DX勉強会を実施          | 3  |
| 地域の食材や農業を紹介するポータルサイトを開設      | 3  |
| 雑穀を使用したお菓子のお披露目販売を実施         | 4  |
| 福祉事業者向けの摘果方法を指導              | 4  |
| 百姓百品グループに天皇杯が授与される           | 5  |
| えひめ農業NOW                     | 6  |
| ■東予地方局 地域農業育成室               | 6  |
| 令和5年度第7回就農初期農業者研修会を開催        | 6  |
| 青年農業者が秋田県の水田農業を学ぶ            | 6  |
| 西条市青年農業者が農業法人を設立             | 7  |
| 食育効果を高めるさといも収穫体験を実施          | 7  |
| ■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班     | 8  |
| 四国中央市産業祭で特産品や協議会活動等をPR       | 8  |
| SNSの情報発信で、組織活動をPR            | 8  |
| ■東予地方局 産地戦略推進室               | 9  |
| ブランド価値向上と若い世代への継承を図る石鎚黒茶の試飲会 | 9  |
| 東予広域花木生産技術等連携会議を開催           | 9  |
| ■今治支局 地域農業育成室                | 10 |
| 今治地域農業魅力発信活動でオリーブを収穫         | 10 |
| えひめ農業女子体験ツアーを開催              | 10 |
| 農福連携を活用したさといも収穫が始まる          | 11 |
| ■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班      | 11 |
| スリランカ農業人材受け入れで意見交換           | 11 |
| ■今治支局 産地戦略推進室                | 12 |
| フェア開催で観光客にしまなみの食材をPR         | 12 |
| 今治産花木類の活用を学ぶレッスン会を開催         | 12 |
| ■中予地方局 地域農業育成室               | 13 |
| さといもの産地化に向け収量調査を実施           | 13 |
| いちご環境制御の必要性を再確認              | 13 |
| 専門学校生に郷土料理を伝承                | 14 |
| 管内島しょ部で初となる農福連携による労働力補完      | 14 |
| ■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班       | 15 |
| そらまめの早期黄化現象の対策実証を開始          | 15 |



|   |    |
|---|----|
| 青年農業者とひめカレ生が農作業を通じて交流                     | 15 |
| ■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班                  | 16 |
| 中予ブロック青年農業者リーダー研修会を開催                     | 16 |
| ■中予地方局 産地戦略推進室                            | 16 |
| パクチーを大阪市場で試食・PR                           | 16 |
| ■南予地方局 地域農業育成室                            | 17 |
| 地元高校生にアシストスーツの活用事例を紹介                     | 17 |
| 移住就農希望者の農作業体験を支援                          | 17 |
| 植物調節剤を利用した「紅まどんな」の果皮障害軽減実証                | 18 |
| いちごの栽培技術向上に向け研修会を開催                       | 18 |
| ■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班                    | 19 |
| 道の駅「森の三角ぼうし」出荷者を対象に病害虫防除のポイントを指導          | 19 |
| 野菜産地の担い手確保に向けた新たな研修体系を提案                  | 19 |
| ■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班                    | 20 |
| 南宇和高校生に「河内晩柑」の夏秋梢処理を指導                    | 20 |
| 防護柵の強化に向け補修点検を支援                          | 20 |
| ■南予地方局 産地戦略推進室                            | 21 |
| ゆずの生産性向上を目指す                              | 21 |
| 年末の「推し」媛かぐやの出荷前講習会を開催                     | 21 |
| ■八幡浜支局 地域農業育成室                            | 22 |
| 「清見」の安定生産に向けた後期落果防止対策を指導                  | 22 |
| ■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班                    | 22 |
| 消費税インボイス制度を学ぶ                             | 22 |
| 秋作ラディッキオ初収穫、球太りまずまず                       | 23 |
| いちご部会員が天敵防除の知識を深める                        | 23 |
| ■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班                    | 24 |
| 大野ヶ原産「四国カルスト高原にんにく」の魅力を首都圏でPR、販路開拓へ！      | 24 |
| 西予市で地産地消を考えるフェスタを開催                       | 24 |
| 四国カルスト高原にんにく体験交流会 in 大野ヶ原！～次代の担い手の確保に向けて～ | 25 |
| ■八幡浜支局 産地戦略推進室                            | 25 |
| 商談会で青ネギの需要動向を調査                           | 25 |
| ■農産園芸課 高度普及推進グループ                         | 26 |
| 環境モニタリングについて学ぶ                            | 26 |



## 11月のトピックス5選

|   |  |          |                             |              |
|---|--|----------|-----------------------------|--------------|
| 標 題   | いちご栽培における農業 DX 勉強会を実施  |          | 機関名                         | 東予地方局産地戦略推進室 |
| 年月日   | 令和5年11月2日、16日、28日  | 場所       | 西条市玉津、石根、玉津                 |              |
| 指導対象  | 若手いちご生産者（4人）、<br>農業指導士（1人）   | 連携<br>機関 | JA（えひめ未来、周桑）、農産園芸課、<br>メーカー |              |
| 普及指導<br>内容  | <p>○若手いちご生産者が栽培環境モニタリング機器を活用し、光合成を促進する最適な環境に制御し単収向上を目指す実証プロジェクトに取り組んでおり、当室は生産者のデータ活用スキルの向上を図る勉強会を2週間に1回実施している。</p> <p>○今回は、「飽差」や「日射量」、「LAI」などデータ分析には欠かせない専門用語やそれぞれのデータが意味することについて指導を行った。</p> <p>○さらに、生産者間のデータを相互に比較しながら、プロジェクトチーム全員で最適な環境制御の手法を検討した。</p> |          |                             |              |
| 結果と今後   | <p>○メンバーからは「日中の温度管理の違いや炭酸ガスのロスなどに気が付き、4人で協力すれば4年間分の経験値を積むことができる」と感動の声が聞かれた。</p> <p>○勉強会は2月まで隔週で実施する予定。また、12月と2月にプロジェクトチーム以外の若手いちご生産者に対し、プロジェクトの実施状況を報告する情報共有会を実施し、栽培環境モニタリングの有効性を伝えていく。</p>  |          |                             |              |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>生育状況を互評する生産者</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>PCのモニタを囲みながら<br/>議論する生産者</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>若手生産者4人と農業指導士のハウス<br/>内温度を一つのグラフに表示</p> </div> </div> |  |          |                             |              |


|   |   |          |             |             |
|---|---|----------|-------------|-------------|
| 標 題   | 地域の食材や農業を紹介するポータルサイトを開設   |          | 機関名         | 今治支局産地戦略推進室 |
| 年月日   | 令和5年11月30日  | 場所       | 今治市         |             |
| 指導対象  | しまなみみんなのディッシュ会員   | 連携<br>機関 | (株) フードスタイル |             |
| 普及指導<br>内容  | <p>○しまなみ地域の農業や食材を紹介する情報ポータルサイト「しまなみみんなのディッシュ」を開設した。</p> <p>○同サイトは、地方局予算「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」の一環として開設するもので、同事業で移住就農者等が中心となって結成した地元農産加工業者のグループ「しまなみみんなのディッシュ」の商品紹介や取扱店舗、イベント、就農者向けの技術情報等を掲載するほか、各種情報はSNSでも発信されている。</p> |          |             |             |
| 結果と今後   | <p>○同サイトは、「タオル美術館」や「せとうちみなとマルシェ」に設置した特設コーナーでの販売や、今後開催する首都圏でのフェア等でも、商品を詳しく紹介するコンテンツとして活用するとともに、引き続き当室が生産現場で得た情報等を掲載するなどして県内外に地域農業の魅力を発信していく。</p>   |          |             |             |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>ポータルサイトのトップ画面</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>スマートフォン表示画面（左：食材、技術情報等を掲載 右：SNSとも連動）</p> </div> </div> |   |          |             |             |

|   |   |   |            |                           |
|---|---|---|------------|---------------------------|
| 標 題   | 雑穀を使用したお菓子のお披露目販売を実施  |   | 機関名        | 中予地方局地域農業育成室<br>久万高原農業指導班 |
| 年月日   | 令和5年11月16日  | 場所  | 中予地方局1階ロビー |                           |
| 指導対象  | 福祉事業所（施設職員2人、利用者1人）   | 連携機関  | 久万高原町      |                           |
| 普及指導内容  | <p>○地方局予算「久万高原地域食材伝承事業」における雑穀を使用した新商品の開発支援の一環として、町内福祉事業所「パステル工房」が、雑穀（地とうきび）を使用したマドレーヌとクッキー等の新商品を開発したことから、お披露目販売を支援した。</p> <p>○中予地方局1階ロビーにおいて、マドレーヌ200個とクッキー、ショートブレッド50個の販売と合わせて、商品PRを行った。</p> |   |            |                           |
| 結果と今後   | <p>○マドレーヌは小麦粉不使用で、町内産の地とうきびを原材料とするグルテンフリーの商品となっており、約1時間で完売した。</p> <p>○今回お披露目した新商品は、今後、町内の道の駅や百貨店で販売を予定している。</p>   |   |            |                           |
|  |   |  |            |                           |
|   |   | <p>左：新商品のお披露目販売会<br/>右：商品PRパンフレット</p>   |            |                           |


|   |  |   |         |                         |
|---|--|---|---------|-------------------------|
| 標 題   | 福祉事業者向けの摘果方法を指導  |   | 機関名     | 南予地方局地域農業育成室<br>愛南農業指導班 |
| 年月日   | 令和5年11月29日   | 場所  | 愛南町御荘平城 |                         |
| 指導対象  | 福祉事業者（就労支援員2人、福祉事業所利用者5人）、生産者1人  | 連携機関  | 愛南町     |                         |
| 普及指導内容  | <p>○農福連携を円滑に進めるため、「甘平」の伸縮性果実袋（サンテ）掛けについて、就労支援員にコーチングを行った後、利用者が袋掛け作業に取り組んだ。</p> <p>○伸縮性果実袋掛けのポイントとして、上下から果実が見えないようにすることや、腐敗果の摘み落としを行うことに加え、作業中に果実や枝を傷つけないことも重要であることを指導した。</p> |   |         |                         |
| 結果と今後   | <p>○就労支援員から掛け忘れを指摘するフォロー等もあり、作業は順調に進んだ。</p> <p>○作業スピードも十分で、生産者からは「人手が足りないため、このような取組みはとてもありがたい」との話があった。</p> <p>○今後も福祉事業者と連携し、農作業の労働補完メニューの拡充等について支援を継続していく。</p>               |   |         |                         |
|  |  |  |         |                         |
|   |  | <p>左：摘果方法の説明<br/>右：丁寧に伸縮性果実袋掛けを行う利用者</p>  |         |                         |



|  |  |  |            |   |
|--|--|--|------------|---|
| 標 題  | 百姓百品グループに天皇杯が授与される   |  | 機関名        | 八幡浜支局地域農業育成室<br>西予農業指導班<br>八幡浜支局産地戦略推進室 |
| 年月日  | 令和5年11月23日   | 場所   | 東京都 明治神宮会館 |   |
| 指導対象   | (株)百姓百品村、百姓百品(株)、<br>(株)野村福祉園  | 連携<br>機関   | 西予市        |   |
| 普及指導<br>内容   | <p>○百姓百品グループは、西予市野村町で3つの事業体を運営しており、「百姓百品」が耕作放棄地の再生による地域特産品の青ネギの生産、「百姓百品村」が地域で生産された農産物や加工品の配送・販売、「野村福祉園」が障がい者による青ネギの収穫や出荷調製等を行っている。</p> <p>○グループは「地域の課題を農業で解決する」を合言葉に、持続可能な事業として地域全体で取り組む体制を構築しており、当班では、その円滑な実施に向け青ねぎの生産・販売や農福連携の活動を支援している。</p> |  |            |   |
| 結果と今後  | <p>○11月23日にはこれまでの活動が評価され、農林水産祭式典において百姓百品グループに「天皇杯（農林水産祭むらづくり部門）」が授与された。受賞者を代表して、和氣会長が「これからも新たな価値創出に努め、消費者の期待に応じて参りたい」と、感謝の言葉を述べられた。</p> <p>○1月には天皇皇后両陛下下拝謁も予定されるなど、「村づくり活動」の優良事例として更なる発展が期待されており、その活動を支援していく。</p>                              |  |            |   |
|  |  |  |            |   |
|  |  | <p>左：和氣会長による感謝の言葉<br/>右：授与された天皇杯</p>   |            |   |

## えひめ農業NOW

|  |   |      |                                |              |
|--|---|------|--------------------------------|--------------|
| 標 題  | 令和5年度第7回就農初期農業者研修会を開催   |      | 機関名                            | 東予地方局地域農業育成室 |
| 年月日  | 令和5年11月16日  | 場所   | 東予地方局西条第二庁舎                    |              |
| 指導対象   | 新規就農者、就農予定者他（33人）   | 連携機関 | JA（えひめ未来、周桑）、新居浜市、西条市、日本政策金融公庫 |              |
| 普及指導内容   | <p>○新規就農者等が農業経営者として早期に自立し、地域の担い手として活躍できるよう、基礎知識や基本技術の習得を図るため「就農初期農業者研修会」を開催した。</p> <p>○当室からさといも栽培の魅力について、愛媛県農業共済組合から収入保険制度や農業簿記ソフト（ソリマチ）の入力方法、税理士事務所からインボイス制度の説明を行った。</p> |      |                                |              |
| 結果と今後  | <p>○出席者からは「さといもについて、高い収益性の面でも経営品目として検討したい」「ソリマチの入力画面を使った講習でイメージが湧き、就農したら実施したい」との声が聞かれた。</p> <p>○次回は、12月19日に「補助事業の活用について」、「地域を考える・自身の経営を考える」と題した講演とグループ討論を予定している。</p>      |      |                                |              |
|  <p style="margin-left: 200px;">さといも栽培の魅力を講習</p> |   |      |                                |              |



|  |  |      |                   |              |
|--|--|------|-------------------|--------------|
| 標 題  | 青年農業者が秋田県の水田農業を学ぶ  |      | 機関名               | 東予地方局地域農業育成室 |
| 年月日  | 令和5年11月13日～15日   | 場所   | 秋田県秋田市、南秋田郡大潟村    |              |
| 指導対象   | 西条地区青年農業者（13人）   | 連携機関 | 西条市農水振興課新居浜市農林水産課 |              |
| 普及指導内容   | <p>○会員が交流を図りながら新たな品目や技術に関する情報を収集することで、自身の経営改善の一助とし、今後の地域農業の振興に資することを目的に研修会を開催した。</p> <p>○西条地区では米麦を生産する会員が多いことから、今回は秋田県立大学大潟キャンパスや秋田県農業試験場、JA大潟村、(株)あきたこまち生産者協会、大潟村干拓博物館を視察し、秋田県における水田農業の特徴や先進農業機械について学ぶとともに、関係機関や大潟村の水稲農家との情報交換を行った。</p> |      |                   |              |
| 結果と今後  | <p>○大潟村と西条地区を比較すると経営規模やほ場条件は大きく異なるものの、農業者の減少や鳥獣被害の増加、スマート農機の導入等共通する課題も多くあり、複数の参加者から「農家が結束して地域を守る必要性を改めて感じた」という声が聞かれた。</p>  |      |                   |              |
|  <p style="margin-left: 200px;">左：先進大型機械の視察<br/>右：(株)あきたこまち生産者協会会長の講話</p> |  |      |                   |              |


|   |   |   |                 |              |
|---|---|---|-----------------|--------------|
| 標 題   | 西条市青年農業者が農業法人を設立  |   | 機関名             | 東予地方局地域農業育成室 |
| 年月日   | 令和5年11月1日   | 場所  |                 |              |
| 指導対象  | 青年農業者（1人）   | 連携機関  | えひめ農業経営サポートセンター |              |
| 普及指導内容  | <p>○西条市青年農業者の豊田聡一氏は、ネギ3ha、さといも0.5ha、きゅうり0.1haを栽培するかたわら、地域での労働力を確保するため地域住民の雇用や協力雇用主制度を活用した取組みも行っている。</p> <p>○当室では、えひめ農業経営サポートセンターの経営相談を活用し、法人化への取組みを継続的に支援してきた。</p>            |   |                 |              |
| 結果と今後   | <p>○その結果、11月1日、農業生産法人「らいえいファーム株式会社」の設立につながった。</p> <p>○同法人は、今後、地域の農家から農産物を買取り出荷販売することや地域の女性の雇用を確保するため観光いちご園の開設を計画している。</p> <p>○当室では、産地戦略推進室と連携し、継続した技術指導や情報提供などを行い、支援していく。</p> |   |                 |              |
|  |   | <p style="text-align: center;"><b>【協力雇用主制度】</b><br/>犯罪や非行をした人を雇用し、<br/>社会復帰を支える制度</p> |                 |              |
|   |   | 青ネギの調整作業を行う豊田代表   |                 |              |


|   |   |   |                |  |
|---|---|---|----------------|--|
| 標 題   | 食育効果を高めるさといも収穫体験を実施   |   | 機関名            | 東予地方局地域農業育成室   |
| 年月日   | 令和5年11月28日  | 場所  | 西条市吉岡地区生産者ほ場   |  |
| 指導対象  | 西条市立吉岡小学校4年生  | 連携機関  | 西条市立吉岡小学校、JA周桑 |  |
| 普及指導内容  | <p>○地方局予算「デジタルを活用した地産地消・食育推進事業」に係る農業体験として、さといも収穫体験を実施した。</p> <p>○当室からはさといもの栽培方法を、生産者からは地域のさといも生産や収穫作業の方法等を説明し、児童は機械で掘り起こしたさといも株を子芋、孫芋に分割する作業を体験した。</p>                    |   |                |  |
| 結果と今後   | <p>○児童からは「さといもに親芋・子芋・孫芋があり、それぞれを見分けられるようになった」との感想が聞かれ、地元の農産物への学びを深める体験となった。</p> <p>○今後、体験の動画を編集後ポータルサイトにアップするとともに、選果場と学校をつないだ遠隔合同授業を実施し、リアルタイムでの農作業体験による食育効果の向上を図る予定。</p> |   |                |  |
|  |   |  |                |  |
| 生産者からさといもについて説明   |   | 芋を分割して収穫コンテナへ   |                | 小学生と記念撮影   |




|   |   |  |                  |                           |
|---|---|--|------------------|---------------------------|
| 標 題   | 四国中央市産業祭で特産品や協議会活動等を PR   |  | 機関名              | 東予地方局地域農業育成室<br>四国中央農業指導班 |
| 年月日   | 令和5年11月18日～19日  | 場所   | 伊予三島運動公園体育館ほか    |                           |
| 指導対象  | 青年農業者連絡協議会、生活研究協議会、さくらひめ四国中央会ほか   | 連携機関   | 四国中央市農業振興課、JA うま |                           |
| 普及指導内容  | <p>○第19回四国中央市産業祭及び第26回JAうまグリーンフェスタの開催を支援。</p> <p>○今回は、コロナ禍を経て4年ぶりの通常開催となり、当班は特産の農産物や鳥獣害対策等のパネル展示、就農相談対応を行ったほか、各団体（青年農業者協議会、生活研究協議会、さくらひめ四国中央会、三島農村女性塾、やまじ丸生産振興協議会）は加工品販売等を通じて活動のPRを行った。</p> |  |                  |                           |
| 結果と今後   | <p>○当日は農作物展の表彰、もち投げ等も行われ、2日間で計15,000人の来場者（初日は荒天のため5,000人）で賑わい、恰好のPRイベントとなった。</p> <p>○協議会等会員は消費者と直に触れ合い、食に関する会話を楽しむことで、地産地消の推進や協議会活動の認知度向上、更なる活性化等に関するヒントを得ていた。</p>                          |  |                  |                           |
|  |   |  |                  |                           |
| 農産物等パネル展示   |   | 協議会活動等をPR（加工品等販売、試食）   |                  |                           |


|   |  |   |                   |  |
|---|--|---|-------------------|--|
| 標 題   | SNSの情報発信で、組織活動を PR   |   | 機関名               | 東予地方局地域農業育成室<br>四国中央農業指導班                                      |
| 年月日   | 令和5年11月6日、18日  | 場所  | たまご専門店熊福、伊予三島運動公園 |  |
| 指導対象  | さくらひめ四国中央会（4人）   | 連携機関  |                   |  |
| 普及指導内容  | <p>○11月6日、さくらひめ四国中央会は、農業や組織活動の魅力を広く発信するため、SNS活用に関心のあるメンバー家族の協力を得ながら、会のInstagramを立ち上げた。</p> <p>○情報発信の内容は、メンバーが生産する農産物（卵、さといも、ねぎ等）を活かした簡単レシピ、農場や農作業の風景などを予定しており、当班は、動画の編集作業等の指導を行った。</p>   |   |                   |  |
| 結果と今後   | <p>○会のInstagramを広く周知するため、11月18日に行われた四国中央市産業祭の出店・展示ブースにおいてQRコードを掲示し、商品購入者等に活動を紹介するなど、多くの来場者にPRを行った。</p> <p>○メンバーはフォロワー数の推移等に一喜一憂していたが、更なる活用方策を検討するなどSNSを有効的に活用する意欲が見られた。</p> <p>○今後もタイムリーな情報発信を行うことで、農業の魅力や地産地消の意義などを周知し、組織活動の活性化につながるよう支援する。</p> |   |                   |  |
|  |  |  |                   | <p>左：全員の意見を集約して会のインスタを立ち上げ</p> <p>右：市産業祭でQRコードを掲示し、組織活動をPR</p> |


|  |  |   |             |              |
|--|--|---|-------------|--------------|
| 標 題  | ブランド価値向上と若い世代への継承を図る石<br>鎚黒茶の試飲会   |   | 機関名         | 東予地方局産地戦略推進室 |
| 年月日  | 令和5年11月14日   | 場所  | 東予地方局西条第二庁舎 |              |
| 指導対象   | 石鎚黒茶生産関係者連携協議会（団<br>体代表9人）、県立西条農業高校（6<br>人）  | 連携<br>機関  | 西条市         |              |
| 普及指導<br>内容   | <p>○石鎚黒茶生産関係者連携協議会が主催する石鎚黒茶試飲会の開催を支援した。</p> <p>○当日は、生産者3団体が製造した今年産の石鎚黒茶を試飲した後、日本茶インストラクターである脇純樹氏による講評や西条農業高校の生徒によるプロジェクト発表を行った。その後、生産者3団体の製品と西条農業高校の発表資料などをマスコミへ紹介し、石鎚黒茶をPRした。</p> |   |             |              |
| 結果と今後  | <p>○脇純樹氏からは「今年は乾燥工程の時期に夕立があるなど大変だったが、飲みやすいお茶に仕上がっている」との講評があった。</p> <p>○高校生からは「研究プロジェクトを続けることで、若い世代へ石鎚黒茶を紹介していきたい」との抱負が聞かれた。</p> <p>○今後、協議会が進める石鎚黒茶のブランド価値向上を目指した取組みを支援していく。</p>    |   |             |              |
|  |  | <p>左：今年の仕上がりを吟味<br/>右：高校生による石鎚黒茶研究プロジェクトについての発表</p> |             |              |

|   |  |                           |   |              |
|---|--|---------------------------|---|--------------|
| 標 題   | 東予広域花木生産技術等連携会議を開催   |                           | 機関名   | 東予地方局産地戦略推進室 |
| 年月日   | 令和5年11月21日   | 場所                        | 東予地方局西条第二庁舎                                     |              |
| 指導対象  |  | 連携<br>機関                  | JA（おちいまばり、周桑、東予園芸、えひめ未来、）県立丹原高等学校、農産園芸課、花き研究指導室 |              |
| 普及指導<br>内容  | <p>○東予地域の花木産地が相互に協力し発展していく方策の検討を目的に、JA や丹原高校、県花木生産振興関係者が一堂に会した「東予広域花木生産技術等連携会議」を初めて開催した。</p> <p>○農林水産研究所花き研究指導室から有望新規品目の紹介や当室から実証試験、丹原高校から苗生産の取組みについて報告を行ったほか、各 JA から出された生産振興、販売促進上の課題等について意見交換を行った。</p> |                           |   |              |
| 結果と今後   | <p>○意見交換の結果、苗木の安定供給や地元花木の PR について丹原高校と連携していくこととなり、今後、具体的な内容について検討することとなった。</p> <p>○当室では、今年度収集したデータを基に、来年度に向けより増収が見込める樹形づくりの実証を行う予定。</p>  |                           |   |              |
|  |  | <p>連携会議で生産振興等について意見交換</p> |   |              |




|  |   |          |                |             |
|--|---|----------|----------------|-------------|
| 標 題  | 今治地域農業魅力発信活動でオリーブを収穫  |          | 機関名            | 今治支局地域農業育成室 |
| 年月日  | 令和5年11月20日  | 場所       | 今治市吉海町         |             |
| 指導対象   | 県立今治南高校園芸クリエイト科<br>1～3年生（8人）  | 連携<br>機関 | 県立今治南高校、今治CATV |             |
| 普及指導<br>内容   | <p>○高校生の就農意識の向上と地域農業の魅力発信を目的に、第1回今治地域農業魅力発信活動として、しまなみ産オリーブの収穫体験などを通して生産者と交流した。</p> <p>○オリーブの生産・加工を行うポパイズクラブ（代表：藤本省四郎氏）がオリーブの生産振興について説明したあと、生徒が手際よく収穫作業に取り組んだ。</p> <p>○収穫後は、選別や搾油を見学し、搾りたてのオリーブオイルや塩漬けしたオリーブを試食した。</p> |          |                |             |
| 結果と今後  | <p>○体験後、生徒からは「今治でオリーブが栽培されているのをはじめて知った」「オリーブオイルのおすすめの使い方を教えてほしい」等の意見があり、地域農産物への関心を高めることができた。</p> <p>○当日の様子は今治CATVが30分程度に編集し、地域情報チャンネルで12月中旬から1か月程度リピート放送する。</p> <p>○第2回は、12月6日に今治産「エコえひめ農産物」農作業体験交流を予定している。</p>       |          |                |             |
| <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;"> <p><b>【ポパイズクラブ】</b><br/>荒廃する吉海町本庄地域の農地を再生しようとH25年に結成された地元住民グループ</p> </div> <div style="display: flex; gap: 20px;">   </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <span>オリーブ収穫体験</span> <span>高校生が生産者へインタビュー</span> </div> |   |          |                |             |



|  |   |          |               |             |
|--|---|----------|---------------|-------------|
| 標 題  | えひめ農業女子体験ツアーを開催   |          | 機関名           | 今治支局地域農業育成室 |
| 年月日  | 令和5年11月25日～26日  | 場所       | 今治市玉川地区、大西地区  |             |
| 指導対象   | 就農を希望する県内外の女性6人<br>（うち大学生4人）  | 連携<br>機関 | 農地・担い手対策室、今治市 |             |
| 普及指導<br>内容   | <p>○女性を農業の担い手として確保するために、松山市と今治市をめぐり2日間の農業体験ツアーを開催した。</p> <p>○ツアー2日目は、今治市で（株）森のともだち農園や女性新規就農者のほ場で野菜の収穫やトラクターの試乗等の農作業体験を支援するとともに、市内の一次産業女子ネットワーク「さくらひめ」メンバーと就農のきっかけや農家の暮らし方などの意見交換を行った。</p> |          |               |             |
| 結果と今後  | <p>○参加した大学生からは「キャベツの収穫作業を始めて体験した。実際に現地に行くことで、農業を行うイメージがわいた」との声が聞かれた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、就農相談等を通して担い手確保に努めていく。</p>  |          |               |             |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>(株)森のともだち農園で意見交換</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>新規就農者ほ場での収穫体験</p> </div> </div> |   |          |               |             |



|   |   |                                   |           |             |
|---|---|-----------------------------------|-----------|-------------|
| 標 題   | 農福連携を活用したさといも収穫が始まる   |                                   | 機関名       | 今治支局地域農業育成室 |
| 年月日   | 令和5年11月8日～  | 場所                                | 今治市朝倉     |             |
| 指導対象  | 青年農業者1人、福祉事業所3カ所  | 連携機関                              | JA おちいまばり |             |
| 普及指導内容  | <p>○当室が開催した農福連携交流セミナー等の参加をきっかけに、福祉事業所3か所と契約した今治市の青年農業者のほ場において、福祉事業所と連携したさといもの収穫作業が始まった。</p> <p>○セミナーや農作業体験マッチング等を通じて、事業所の支援員や利用者に作業内容の確認や注意事項の説明等、福祉事業所との契約に向けた支援を継続的に行い、スムーズな契約に結び付けた。</p> |                                   |           |             |
| 結果と今後   | <p>○11月から3事業所と契約し、継続的な労働力の確保につながっている。</p> <p>○生産者からは「作業も丁寧で収穫も順調に進み、非常に助かっている」「今後も農福連携を活用し、栽培面積の拡大を目指したい」との声が聞かれた。</p> <p>○他のさといも生産者も興味を持っていることから、今回の事例を紹介し、横展開を図っていく。</p>                  |                                   |           |             |
|  |   | <p>さといもの収穫を行う<br/>事業所の支援員と利用者</p> |           |             |


|   |   |                              |                              |                          |
|---|---|------------------------------|------------------------------|--------------------------|
| 標 題   | スリランカ農業人材受け入れで意見交換  |                              | 機関名                          | 今治支局地域農業育成室<br>しまなみ農業指導班 |
| 年月日   | 令和5年11月21日  | 場所                           | 上島町岩城                        |                          |
| 指導対象  | (株) ブルーレモンファーム  | 連携機関                         | 公益財団法人国際人材育成機構 (アイムジャパン)、上島町 |                          |
| 普及指導内容  | <p>○かねてより外国人労働者の受け入れを検討している上島町岩城の農業法人に対してスリランカ農業技能実習生に関する説明を行った。</p> <p>○公益財団法人国際人材育成機構の担当者を招き、制度概要について説明を受けるとともに、人材育成の様子や生活面等の受け入れ側の不安材料などについて意見交換を行った。</p>                                  |                              |                              |                          |
| 結果と今後   | <p>○上島町では、造船等への労働者の流出により若い農業人材が乏しく、外国人による労働力確保も検討しているなか、今回、専門家から要件や費用、導入事例などの具体的な情報が得られ、今後の選択肢となり得ることがわかった。</p> <p>○外国人受け入れは、国内人材よりも初期研修や管理団体への費用負担が大きく、年間を通じた労務管理など課題も多いことから、引き続き協議していく。</p> |                              |                              |                          |
|  |   | <p>スリランカ農業人材受け入れについて意見交換</p> |                              |                          |

|   |  |           |          |                 |
|---|--|-----------|----------|-----------------|
| 標 題   | フェア開催で観光客にしまなみの食材を PR  |           | 機関名      | 今治支局産地戦略推進室     |
| 年月日   | 令和5年11月11日～26日   | 場所        | 伊織松山お城下店 |                 |
| 指導対象  | しまなみみんなのディッシュ会員  | 連携機関      | (株)伊織    |                 |
| 普及指導内容  | <p>○松山城登り口にある土産物販売店「伊織松山お城下店」において、しまなみの食材を期間限定でPR、販売するイベントを開催した。</p> <p>○同イベントは、「儲かるモデル産地育成システム確立実証事業」の一環で開催したもので、しまなみ地域で農産加工品を生産する事業者グループ「しまなみみんなのディッシュ」の商品41品を販売した。また、期間中は週休日に合わせてワインやしいたけ、レモン、オリーブ加工品の試食会を開催した。</p> |           |          |                 |
| 結果と今後   | <p>○ワインやオリーブの加工品等の人気商品は、早い段階で完売するなど販売は好調で、しまなみ地域の商品や農業を広く観光客等にPRすることができた。</p> <p>○1月には系列店であるシンエヒメ（東京都丸の内）でも販売イベントを開催することとしており、販売する商品や農業者の情報等は、11月から開設する食材情報ポータルサイト「しまなみみんなのディッシュ」でも随時発信していく。</p>                       |           |          |                 |
|    |  |           |          |                 |
| 設置した特設コーナー  |  | オリーブ商品の試食 |          | コーナー、試食体験会の店頭告知 |

|   |  |         |                    |             |
|---|--|---------|--------------------|-------------|
| 標 題   | 今治産花木類の活用を学ぶレッスンを開催  |         | 機関名                | 今治支局産地戦略推進室 |
| 年月日   | 令和5年11月19日   | 場所      | タオル美術館（ガーデンテラス）    |             |
| 指導対象  | 花き愛好家等（30人）  | 連携機関    | 季節の花 花心、<br>タオル美術館 |             |
| 普及指導内容  | <p>○地方局予算「しまなみ地域の魅力ある農業産地化事業」の一環として、今治産の花木類を地元消費者等に知ってもらうためのフラワーレッスンを開催した。</p> <p>○同会では、当室がビバーナムティナスやピットスポラム等の今治市内で産地化が進む花木類を紹介するとともに、広島県で生花店を経営しInstagramでも3.5万人のフォロワーを持つ平光繁仁氏と、今治市内の生花店「季節の花 花心」の店主の越智幸雄氏が花木類を使った花束の制作を指導した。</p> |         |                    |             |
| 結果と今後   | <p>○開催後のアンケート結果では「今治が花木の産地であることも知らなかった」「今後は花木類も購入して使いたい」という声が聞かれた。</p> <p>○当室では、引き続き広く消費者や関係事業者等に今治産花木類やその活用法を知ってもらう活動に取り組む。</p>   |         |                    |             |
|    |  |         |                    |             |
| 今治産花木類の紹介   |  | 花束づくり作業 |                    | 完成したアレンジ花束  |



|   |   |   |                           |                                       |
|---|---|---|---------------------------|---------------------------------------|
| 標 題   | さといもの産地化に向け収量調査を実施  |   | 機関名                       | 中予地方局地域農業育成室                          |
| 年月日   | 令和5年11月13日  | 場所  | 松山市北条、東温市下林               |                                       |
| 指導対象  | さといも生産者（2人）   | 連携機関  | JA（松山市、えひめ中央）<br>県農林水産研究所 |                                       |
| 普及指導内容  | ○管内のさといも栽培面積は7.5haで、高収益品目として産地拡大が見込まれている。<br>○産地拡大に向けた基礎データとするため、管内2か所のほ場において、農家及びJA指導員等と収量調査（各6株）を実施するとともに、子芋、孫芋及び親芋に分別し、それぞれの個数、重量等を計測した。   |   |                           |                                       |
| 結果と今後   | ○今年は、高温少雨等の影響により肥大抑制が懸念されていたが、夏場のかん水指導の徹底が功を奏し、1株当たり収量（子芋、孫芋）は1,883g（前年比103%）と前年並みの結果であった。<br>○12月には規模拡大を希望する管内の生産者等を対象に、機械化体系の先進事例調査を予定している。 |   |                           |                                       |
|  |   |  |                           | <p>左：さといもの収量調査<br/>右：調査株の着生状況（1株）</p> |

|   |  |   |                              |  |
|---|--|---|------------------------------|--|
| 標 題   | いちご環境制御の必要性を再確認  |   | 機関名                          | 中予地方局地域農業育成室   |
| 年月日   | 令和5年11月29日   | 場所  | 東温市上村                        |  |
| 指導対象  | だんだんの会会員等（5人）  | 連携機関  | JA（松山市、えひめ中央）、農産園芸課、県農林水産研究所 |  |
| 普及指導内容  | ○若手いちご農家を対象とした「だんだんの会」を、(株)セラクの勉強会と合同で開催した。<br>○当日は、生育調査及び簡易測定機器による土壌ECと植物体の硝酸態窒素濃度を測定するとともに、その後、会員らとデータ共有用のCO <sub>2</sub> センサーを設置した。<br>○(株)セラクは、本事業の開始にあたり、会員らに対して環境制御装置及び各種センサーを紹介した後、ハウス内に設置しモニタリングを開始した。 |   |                              |  |
| 結果と今後   | ○会員らは、生育調査データの共有と継続的な勉強会の開催を申し合わせた。<br>○今回の勉強会には、地域内の環境制御に興味のある若手農家も新たに参加しており、「だんだんの会」は管内のいちご生産振興を担う組織となりつつある。<br>○計測されたデータは、個人及び関係者のスマートフォンにも情報共有されるため、随時、生育ステージに応じた栽培管理について、適切な指導を行うこととしている。                 |   |                              |  |
|  |  |  |                              | <p>だんだんの会：R4.12月に環境制御技術に関心のある若手農家を対象に結成したグループ</p> <p>左：生育調査方法の指導<br/>右：CO<sub>2</sub>センサーの取扱説明</p> |



|  |  |             |                |              |
|--|--|-------------|----------------|--------------|
| 標 題  | 専門学校生に郷土料理を伝承  |             | 機関名            | 中予地方局地域農業育成室 |
| 年月日  | 令和5年11月8日  | 場所          | 愛媛調理製菓専門学校     |              |
| 指導対象   | 松山地区生活研究協議会員（9人）   | 連携機関        | 松山市、東温市        |              |
| 普及指導内容   | <p>○郷土料理の伝承を目的に、松山地区生活研究協議会が愛媛調理製菓専門学校生 21 人を対象にした「出前講座」の実施を支援した。</p> <p>○講座では、東温市産のもち麦を粉にした団子を入れた「東温汁」のほか、季節の野菜や魚を使った料理を学生と調理し試食した。</p> <p>○また、ハーブを栽培している協議会員が、種類や効能を説明するとともに、ハーブティーの入れ方などを実演し、カフェ科の学生も加わり賑やかに交流した。</p> |             |                |              |
| 結果と今後  | <p>○講座終了後のアンケートでは、学生全員が「おいしかった」「他の郷土料理も学びたい」と回答するなど好評を得た。</p> <p>○今後も当協議会活動を支援し、食農教育や地産地消、若い世代への郷土料理の伝承を推進する。</p>  |             |                |              |
|  |  |             |                |              |
| 交流を通して郷土料理を伝承  |  | 出来上がった料理の数々 | 生ハーブの香りを確かめる学生 |              |

|  |   |                |                |              |
|--|---|----------------|----------------|--------------|
| 標 題  | 管内島しょ部で初となる農福連携による労働力補完   |                | 機関名            | 中予地方局地域農業育成室 |
| 年月日  | 令和5年11月10日  | 場所             | 松山市中島          |              |
| 指導対象   | かんきつ農家(1人)、福祉事業所(支援員1人、利用者5人)   | 連携機関           | JA えひめ中央       |              |
| 普及指導内容   | <p>○農家の労働力を確保するため、就労継続B型事業所「まこと」との農福連携による、「せとか」の伸縮性果実袋（サンテ）掛け作業を実施した。</p> <p>○管内島しょ部には施設外就労に取り組む事業所がなく、農福連携を行うためには陸地部から通勤する必要があるため、作業時間の制約や船賃の負担等から、これまでマッチングの事例が無かった。</p> <p>○今回、福祉事業所にも船賃の一部を負担できないか調整した結果、農家及び事業所双方の理解を得ることができ、マッチングの実施に至った。</p> <p>○作業では、農家と福祉事業所のコミュニケーションが円滑となるよう、ホワイトボードに写真やイラストを載せ、「作業内容の見える化」を図った。</p> |                |                |              |
| 結果と今後  | <p>○2時間で「せとか」30本分の作業が完了し、農家は「交通費が余分にかかっても継続して作業を依頼したい」と作業結果に満足していた。</p> <p>○今回のマッチングを契機に12月に行う「甘平」のサンテ掛け作業の契約にも至り、農福連携を継続することとなった。</p>  |                |                |              |
|  |   |                |                |              |
| 施設利用者に作業を説明  |   | 説明に活用したホワイトボード | 作業を確認しつつ助言する農家 |              |


|        |  |   |   |                         |
|--------|--|---|---|-------------------------|
| 標 題    | そらまめの早期黄化現象の対策実証を開始  |   | 機関名   | 中予地方局地域農業育成室<br>伊予農業指導班 |
| 年月日    | 令和5年11月3日  | 場所  | 伊予市上野   |                         |
| 指導対象   | 伊予地区蚕豆部会   | 連携機関  | JA えひめ中央、県農林水産研究所   |                         |
| 普及指導内容 | <p>○近年、管内のそらまめ栽培園地の一部で、収穫前から未成熟のまま黄化し始める現象が見られ、収穫期間が短くなり収量の低下を招いている。</p> <p>○このため当班では、黄化現象の発生要因解明の一環として、土壤消毒による初期生育の改善を目的とした実証ほを設置した。</p> <p>○土壤消毒は、定植1か月前のマルチ被覆と同時に薬剤（クロルピクリン等）処理を実施した。</p> |   |   |                         |
| 結果と今後  | <p>○現時点では、土壤消毒によるガス障害等は発生しておらず、生育は順調。</p> <p>○今後、生育調査と収穫期の黄化程度の比較により、土壤消毒の有効性を検証する。</p>  |   |   |                         |
|        |   |  |  |                         |
|        | そらまめの黄化現象  | マルチ被覆と同時に土壤消毒   | 定植後の生育状況  |                         |


|        |   |   |                   |                         |
|--------|---|---|-------------------|-------------------------|
| 標 題    | 青年農業者とひめカレ生が農作業を通じて交流   |   | 機関名               | 中予地方局地域農業育成室<br>伊予農業指導班 |
| 年月日    | 令和5年11月8日   | 場所  | 砥部町中央公民館及び青年農業者ほ場 |                         |
| 指導対象   | 砥部町青年農業者協議会員（4人）<br>えひめ農業未来カレッジ学生(12人)  | 連携機関  | 砥部町、県立農業大学校       |                         |
| 普及指導内容 | <p>○青年農業者協議会活動の魅力発信と新規就農希望者の掘り起こしを目的に、えひめ農業未来カレッジの学生を対象に交流会を実施した。</p> <p>○参加した学生は4ヶ所のほ場に分かれ、青年農業者とキウイフルーツや「紅まどんな」の収穫作業を行うとともに、将来の夢について語り合った。</p> <p>○作業後はともに昼食をとり、最後に当日の感想や意見の交換を行った。</p> |   |                   |                         |
| 結果と今後  | <p>○学生からは「将来の就農に向けたイメージができた」、会員からは「もう少し意見交換の時間を長くとり理解を深めたかった」等と前向きな意見が出された。</p> <p>○青年農業者協議会の活動が、就農希望者の掘り起こしにつながる魅力的なものとなるよう、今後も活動支援を行う。</p>  |   |                   |                         |
|        |    |  |                   |                         |
|        |   | <p>左：熱心に意見交換</p> <p>右：ほ場で作業する青年農業者とひめカレ生</p>  |                   |                         |





|  |  |  |                                  |   |
|--|--|--|----------------------------------|---|
| 標 題  | 中予ブロック青年農業者リーダー研修会を開催  |  | 機関名                              | 中予地方局地域農業育成室<br>久万高原農業指導班                               |
| 年月日  | 令和5年11月1日  | 場所   | 道の駅天空の郷さんさん、竹森ガーデン、MASUDA CoFFEE |   |
| 指導対象   | 中予地域各地区青年農業者連絡協議<br>会員（20人）  | 連携<br>機関   | 久万高原町、えひめ農林漁業振興機<br>構            |   |
| 普及指導<br>内容   | <p>○中予地域の青年農業者を対象に、知識・技術の向上と相互の交流を目的としたリーダー研修会を開催した。</p> <p>○「農業経営の多角化」をテーマに、道の駅での取組みや観光農園・加工品などについて、久万高原町ふるさと創生課職員より講演があった後、観光農園や農家カフェを実践している農家で現地研修を行った。</p> <p>○また、各地区協議会の活動状況を報告し、今後の活動の参考とした。</p> |  |                                  |   |
| 結果と今後  | <p>○青年農業者リーダーは、農業経営に関する講演や6次産業化とグリーン・ツーリズムに関する研修を通して、地域農業の活性化方策やリーダーとしてのスキルを身につけることができた。</p> <p>○引き続き、青年組織の活動支援を通じて、次代の地域農業を担うリーダーを育成する。</p>   |  |                                  |   |
|  |  |  |                                  | <p>左：「農業経営の多角化」を<br/>テーマとした講演</p> <p>右：観光ブドウ園での現地研修</p> |




|  |  |   |                  |  |
|--|--|---|------------------|--|
| 標 題  | パクチーを大阪市場で試食・PR  |   | 機関名              | 中予地方局産地戦略推進室   |
| 年月日  | 令和5年11月16日   | 場所  | 大阪中央青果株式会社 野菜売り場 |  |
| 指導対象   | 卸業者（1社）、仲卸業者（20社）  | 連携<br>機関  | 県大阪事務所、JA えひめ中央  |  |
| 普及指導<br>内容   | <p>○中予地域のパクチーの主な出荷先である大阪中央青果株式会社で、今後のパクチーの生産量増加に向けての円滑な取引を確保していくため、卸、仲卸業者を対象に試食会とPR活動を実施した。</p> <p>○当日は、パクチーかき揚げうどんの試食や産地概要のパンフレット配布と合わせてパクチーの取扱状況等のアンケートを行った。</p>   |   |                  |  |
| 結果と今後  | <p>○試食では「愛媛産は品質が良く、味も良いことが分かったので今後取り扱いたい」「初めて食べたが美味しい」「他にどんな食べ方があるのか知りたい」等の意見が聞かれ、用意した100食は20分で全て食された。</p> <p>○また、パンフレットは「産地の概要がよくわかるので良い」「顧客にこのようなチラシが欲しかった」等の感想を頂いた。</p> <p>○今後、アンケート調査結果等を踏まえ、取引希望のある仲卸業者と連携し、中予産パクチーの知名度向上と実需の創出につなげていく。</p> |   |                  |  |
|  <p>試食・PR会場</p> |  |  <p>パクチーかき揚げうどんの試食</p> |                  |  <p>パンフレット</p> |


|   |   |                                      |                 |              |
|---|---|--------------------------------------|-----------------|--------------|
| 標 題   | 地元高校生にアシストスーツの活用事例を紹介   |                                      | 機関名             | 南予地方局地域農業育成室 |
| 年月日   | 令和5年11月13日  | 場所                                   | 南予地方局5階 地域農業育成室 |              |
| 指導対象  | 宇和島南高校2年生（3名）   | 連携機関                                 |                 |              |
| 普及指導内容  | <p>○農業用アシストスーツの効果や実用性を研究課題としている同校の生徒から要請を受け、かんきつ農業における使用事例等の情報提供を行った。</p> <p>○実際に選果や運搬作業で使用した農家等からの意見を紹介するとともに、生徒がアシストスーツの着用を体験した。</p>      |                                      |                 |              |
| 結果と今後   | <p>○着用体験では「荷物が軽く感じる」「引っ張る力がすごい」など効果を実感した様子で、「実用性研究の参考にしたい」と関心が寄せられた。</p> <p>○今後も地元の高校生等が、地域の基幹産業である農業に触れる活動等を支援し、農業の魅力発信や担い手確保等につなげていく。</p> |                                      |                 |              |
|  |   | <p>左：アンケート結果の説明<br/>右：着用体験を行う高校生</p> |                 |              |



|   |  |                                   |              |              |
|---|--|-----------------------------------|--------------|--------------|
| 標 題   | 移住就農希望者の農作業体験を支援   |                                   | 機関名          | 南予地方局地域農業育成室 |
| 年月日   | 令和5年11月18～20日  | 場所                                | 宇和島市吉田町      |              |
| 指導対象  | 移住就農希望者、受入農家   | 連携機関                              | 宇和島市、JA えひめ南 |              |
| 普及指導内容  | <p>○宇和島市農業支援センター（構成員：市、JA、普及機関）では、県外からの移住就農希望者に短期間の「お試し農業体験」を提供することで、当市の農業を体感してもらい、次の研修ステップにつなげることとしている。</p> <p>○今年8月に市主催の移住体験ツアーで来県した就農希望者が、みかんの収穫期に合わせて再び来訪し、18、19日に市内の受入農家で収穫、選果、運搬、箱詰め等を体験。翌20日には、来年度開校予定の「JA えひめ南みかん学校」の研修園で収穫等の作業を行った後、当室ほか同センターの職員と意見交換をした。</p> |                                   |              |              |
| 結果と今後   | <p>○就農希望者からは「農業体験を通して移住就農に前向きになれた。地域の雰囲気も良く分かった」との話があり、来年度の移住就農に向け前向きな意向が示された。</p> <p>○当室では今後も関係機関と連携し、次年度のスムーズな就農に向け支援していく。</p>   |                                   |              |              |
|  |  | <p>収穫方法について指導<br/>(右：移住就農希望者)</p> |              |              |



|   |   |  |         |  |
|---|---|--|---------|--|
| 標 題   | 植物調節剤を利用した「紅まどonna」の果皮障害軽減実証  |  | 機関名     | 南予地方局地域農業育成室                               |
| 年月日   | 令和5年11月22日  | 場所   | 宇和島市津島町 |  |
| 指導対象  | 「紅まどonna」栽培農家   | 連携機関   | JA えひめ南 |  |
| 普及指導内容  | <p>○同品種は施設栽培が基本であるが、当地域では園地条件等から一定の面積で露地栽培されており、果皮障害（クラッキング）の発生が問題となっていることから、軽減対策として、植物調節剤（ジベレリン）の散布と笠かけ栽培の比較実証を行った。</p> <p>○10月16日に植物調節剤を散布、対照として笠かけを実施した。</p> <p>○収穫後、果梗部周辺の果皮障害の程度を調査した。</p> |  |         |  |
| 結果と今後   | <p>○果皮障害の発生率は、植物調節剤散布と笠かけ栽培でほぼ同程度であった。</p> <p>○笠かけや袋かけが省略できれば大幅な省力化につながるため、引き続き関係機関と連携し、効果的な対策を検討する。</p>  |  |         |  |
|  |   |  |         | <p>左：果梗部周辺の果皮障害（クラッキング）</p> <p>右：笠かけ処理</p> |




|   |   |   |                  |                                    |
|---|---|---|------------------|------------------------------------|
| 標 題   | いちごの栽培技術向上に向け研修会を開催   |   | 機関名              | 南予地方局地域農業育成室                       |
| 年月日   | 令和5年11月28日  | 場所  | 宇和島市津島町          |                                    |
| 指導対象  | いちご農家（17人）  | 連携機関  | 病虫害防除所南予駐在 農産園芸課 |                                    |
| 普及指導内容  | <p>○宇和島市、北宇和郡のいちご生産者を会員とする宇和島地区いちご研究連絡協議会の活動の一環として、現地研修会を開催した。</p> <p>○管内で問題となっている萎黄病の発生条件や防除対策、導入農家が増えつつある天敵の利用技術、ハウス内を見える化できる環境モニタリングについて、普及指導員やメーカー等から説明するとともに、津島町のほ場2か所で生育状況等を確認した。</p> |   |                  |                                    |
| 結果と今後   | <p>○参加者からは「管理方法は人それぞれなので、実際にはほ場を見ながら指導を受けることができ理解が深まった」「ハダニやアザミウマには悩まされるので、天敵の利用について検討したい」等の感想が聞かれた。</p> <p>○今後も定期的に研修会や巡回指導を行い、高品質安定生産につなげる。</p>   |   |                  |                                    |
|  |   |  |                  | <p>左：萎黄病対策の講義</p> <p>右：ほ場で意見交換</p> |




|   |  |      |                    |                         |
|---|--|------|--------------------|-------------------------|
| 標 題   | 道の駅「森の三角ぼうし」出荷者を対象に病害虫防除のポイントを指導   |      | 機関名                | 南予地方局地域農業育成室<br>鬼北農業指導班 |
| 年月日   | 令和5年11月6日  | 場所   | 鬼北町 近永公民館          |                         |
| 指導対象  | 青空市直販部会員 (50名)   | 連携機関 | 青空市直販部会、森の三角ぼうし(株) |                         |
| 普及指導内容  | <p>○「森の三角ぼうし直販部会」では、消費者に新鮮でより安心な農産物を届けるため、出荷者に対し「生産者レベルアップセミナー」を開催した。</p> <p>○当班からは、作物・野菜の病害虫防除として、生育障害の原因や植物を観察するポイントなど、現場でできる診断技術を中心に指導した。</p>                             |      |                    |                         |
| 結果と今後   | <p>○出荷者からは、葉害の発生や農薬混用、生理障害の見分け方など、実際の事例をもとに多くの質問があり、丁寧に指導した結果、「新しい知識・技術が習得でき、病害虫の早期対処が可能になる」との声が多く聞かれた。</p> <p>○次回は、環境に配慮した栽培、適切な防除による栽培コストの低減をテーマに「農薬の安全使用セミナー」を開催する予定。</p> |      |                    |                         |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>「森の三角ぼうし」</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>野菜直販コーナー</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>生産者レベルアップセミナー</p> </div> </div> |  |      |                    |                         |

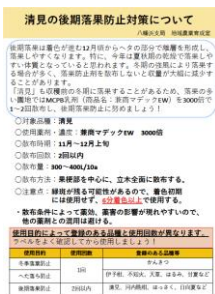
|   |   |      |                               |                         |
|---|---|------|-------------------------------|-------------------------|
| 標 題   | 野菜産地の担い手確保に向けた新たな研修体系を提案  |      | 機関名                           | 南予地方局地域農業育成室<br>鬼北農業指導班 |
| 年月日   | 令和5年11月9日   | 場所   | 鬼北農業指導班2階 講堂                  |                         |
| 指導対象  |   | 連携機関 | 鬼北町及び松野町(役場、農業委員会、公社)、JA えひめ南 |                         |
| 普及指導内容  | <p>○鬼北地域における野菜の担い手確保に向け、町、公社、JA等の関係機関が出席し、次年度以降の新たな研修体系について検討した。</p> <p>○7月に実施した第1回会議での検討結果をもとに、当班から「技術実習」と「座学」を2本柱とした研修内容と役割分担を提案した。</p> <p>○技術実習は、公社での研修に加え、先進農家での体験研修や現地講習会等を組み合わせる具体的な内容とし、座学は、経営や栽培管理、病害虫防除等の基礎的な内容に加え、農地法や先進技術、視察研修等も盛り込む研修内容を提案した。</p> <p>○関係機関からも、簿記や草刈機の使い方、鳥獣害対策、農作業安全講座等の実践的な内容が提案された。</p> |      |                               |                         |
| 結果と今後   | <p>○今回の案をもとに、引き続き当地域における効果的な研修体制のほか、施設整備に係る初期投資や経営指標、研修終了後のハウスや農地等の確保支援も含めた総合的な検討を進めていく。</p>  |      |                               |                         |
|  <p>関係機関と新たな研修体系について協議</p> |   |      |                               |                         |


|   |  |   |                    |                         |
|---|--|---|--------------------|-------------------------|
| 標 題   | 南宇和高校生に「河内晩柑」の夏秋梢処理を指導   |   | 機関名                | 南予地方局地域農業育成室<br>愛南農業指導班 |
| 年月日   | 令和5年11月8日  | 場所  | JA えひめ南研修ほ場（愛南町満倉） |                         |
| 指導対象  | 南宇和高校生2、3年生（28人）   | 連携機関  | JA えひめ南、愛南町        |                         |
| 普及指導内容  | <p>○JA 及び町と連携し、南宇和高校2、3年生を対象に、「河内晩柑」の夏秋梢処理研修会を開催した。</p> <p>○当班は、3年前から低樹高化や軽労働化につながるせん定や夏秋梢処理などの研修会を開催し、「河内晩柑」の生産に対する生徒の理解を深めている。</p> <p>○併せて、地域農業の魅力発信の一環として、地元で優れた経営を行っている生産者や就農支援制度について紹介した。</p> |   |                    |                         |
| 結果と今後   | <p>○高校生は当初、長大な夏秋梢の処理に苦戦していたが、せん定はさみの使用方法についてアドバイスを受けた後は、スムーズに作業を進めていた。</p> <p>○将来、就農したいという生徒の情報も聞かれ、引き続き、南宇和高校と連携して就農に向けたサポートをしていく。</p>  |   |                    |                         |
|   |  | <p>【夏秋梢】<br/>7月～9月にかけてかんきつの樹冠上部に発生する強い立性の新梢</p> <p>左：就農支援制度の説明<br/>右：アドバイスを受けて立枝を除去</p> |                    |                         |

|   |   |   |               |                         |
|---|---|---|---------------|-------------------------|
| 標 題   | 防護柵の強化に向け補修点検を支援  |   | 機関名           | 南予地方局地域農業育成室<br>愛南農業指導班 |
| 年月日   | 令和5年11月20日  | 場所  | 愛南町御荘平山       |                         |
| 指導対象  | 御荘平山地区生産者（20名）  | 連携機関  | 愛南町役場、JA えひめ南 |                         |
| 普及指導内容  | <p>○毎年、御荘平山地区で行われている防護柵の補修点検にあたり、補修時の注意事項を説明するなど点検活動を支援した。</p> <p>○防護柵の補強に当たっては、平坦地では単にワイヤーメッシュをあてがうのではなく、底辺を片側へL字に折り曲げて設置することで強度が増すこと、センサーカメラの映像から大型獣はワイヤーメッシュを下から押し上げて侵入しているため接地部分に隙間がないかよく確認する必要があることなどを指導した。</p> <p>○併せて、捕獲活動への関心を高めるため、くくり罠の設置、作動実演を行った。</p> |   |               |                         |
| 結果と今後   | <p>○点検活動では、ワイヤーメッシュのL字加工による補強や接地面の隙間解消作業が事前講習に沿って行われていることを確認した。</p> <p>○今年度、新たに2名が罠免許を取得しており、引き続き、捕獲技術向上に向けた指導を行う。</p>  |   |               |                         |
|   |   | <p>左：L字加工を行ったワイヤーメッシュによる補強</p> <p>右：くくり罠の動作確認</p> |               |                         |



|  |  |            |         |              |
|--|--|------------|---------|--------------|
| 標 題  | ゆずの生産性向上を目指す   |            | 機関名     | 南予地方局産地戦略推進室 |
| 年月日  | 令和5年11月15日   | 場所         | 鬼北町、松野町 |              |
| 指導対象   | ゆず生産農家   | 連携機関       |         |              |
| 普及指導内容   | ○鬼北町及び松野町特産のゆずは、水田転換園の排水不良や管理不足による高木化など課題が多いことから、生育環境の改善と作業効率の向上を目的とした対策に取り組んでおり、収穫時の調査を実施した。  |            |         |              |
| 結果と今後  | ○昨年、水田の排水対策を実施した園地（若木）では、生育が順調で樹冠拡大しており収量も伸びている（調査樹5本の平均収量22.1kg/樹、昨年比147%）。<br>○作業性改善のために樹高を大幅に切り下げた園地では、脚立による高所作業が不要となり、収穫に係る作業時間も大幅に短縮することが可能となった。<br>○今後は樹冠内部で発生する新梢を活用した樹の若返りに取り組むほか、講習会等において調査結果を報告し、適正な樹形管理に向けた指導を強化する。 |            |         |              |
|    |  |            |         |              |
| 排水対策を講じた園の若木   |  | 高所作業となる従来樹 |         | 切り下げた改良樹     |

|   |  |            |                |              |
|---|--|------------|----------------|--------------|
| 標 題   | 年末の「押し」媛かぐやの出荷前講習会を開催  |            | 機関名            | 南予地方局産地戦略推進室 |
| 年月日   | 令和5年11月20日   | 場所         | 道の駅みま（宇和島市三間町） |              |
| 指導対象  | 道の駅みま出荷者（10人）  | 連携機関       | 道の駅みま、県農林水産研究所 |              |
| 普及指導内容  | ○道の駅こだわりの逸品として推す「媛かぐや」の出荷を控え、生育状況の確認や今後の販売方針への意識統一を図る講習会を開催した。<br>○事前に県農林水産研究所職員と行った個別巡回では、良好な生育状況を確認しており、生育の大きな要因である夏季のかん水の重要性を改めて説明した。<br>○収穫時期や販売形態については、同駅が企画する「年末感謝祭」をメイン出荷期とすることを申し合わせた。 |            |                |              |
| 結果と今後   | ○生産者からは「(昨年より)かん水に配慮した結果、格段に収量は上がる見込み。来年度も前向きに取り組みたい」といった意見があった。<br>○12月上旬から収穫を見込んでおり、今後は、道の駅内に専用販売ブースを設置し、年末感謝祭における販促活動を行うこととしている。  |            |                |              |
|    |  |            |                |              |
| 生育状況や収穫方法を説明  |  | 収穫時期を現場で協議 |                | 専用ディスプレイ用箱   |



|  |  |  |             |              |
|--|--|--|-------------|--------------|
| 標 題  | 「清見」の安定生産に向けた後期落果防止対策を指導   |  | 機関名         | 八幡浜支局地域農業育成室 |
| 年月日  | 令和5年11月22日   | 場所   | JAにしうわ三崎出張所 |              |
| 指導対象   | 三崎地区のかんきつ生産者(121人)   | 連携機関   | JAにしうわ      |              |
| 普及指導内容   | <p>○「清見」の安定生産を目的とした後期落果防止対策について、当室が作成した資料に基づき指導した。</p> <p>○2月下旬から3月に収穫を迎える清見は、過乾燥等による離層形成や冬期の強風が原因で落果し収量が減少することが懸念され、収量の確保に向けて落果防止剤の散布が重要となる。</p>                |  |             |              |
| 結果と今後  | <p>○特に今年は、夏秋期の乾燥により樹勢が低下しており、落果しやすい条件であるため、6分着色以上となる11月から12月上旬に落果防止剤を散布し、後期落果を軽減し安定生産につなげた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、園地巡回や個別指導等を行うことで、「清見」の収量確保と正品率向上に向けて取り組んでいく。</p> |  |             |              |
| <p>【後期落果】<br/>生育後期(12月～3月)に離層形成、強風が原因で果実が落果してしまう現象</p> |  | <p>後期落果防止対策に関する資料</p>  |             |              |

|   |   |                      |                 |                         |
|---|---|----------------------|-----------------|-------------------------|
| 標 題   | 消費税インボイス制度を学ぶ   |                      | 機関名             | 八幡浜支局地域農業育成室<br>大洲農業指導班 |
| 年月日   | 令和5年11月6日   | 場所                   | 大洲市新谷公民館        |                         |
| 指導対象  | 認定農業者、青年農業者、新規就農者等(16人)   | 連携機関                 | 大洲市、内子町、JA愛媛たいき |                         |
| 普及指導内容  | <p>○大洲喜多地区認定農業者協議会主催により、令和5年10月から始まった同制度の再確認と改正による注意点等を学ぶことを目的に、農業経営研修会を開催した。</p> <p>○当班は、運営支援に加え、協議会員以外の青年・新規就農者への参加を積極的に呼び掛けた。</p> <p>○和泉真紀夫税理士を講師に招き、インボイス制度の基礎的な仕組みをはじめ、令和6年1月以後の電子取引データの保存方法や、免税事業者の登録要否判断、対処方法など、農業者として当面必要となる事項について確認した。</p> |                      |                 |                         |
| 結果と今後   | <p>○参加者は、自らの経営状況により対応が変わってくることを再確認するとともに、青年・新規就農者は、研修後も講師にポイントを尋ねるなど、熱心に学んでいた。</p> <p>○今後も研修会や先進地視察を通して、認定農業者の経営向上を図っていく。</p>   |                      |                 |                         |
|  |   | <p>講師による制度概要等の説明</p> |                 |                         |



|   |   |  |               |                                       |
|---|---|--|---------------|---------------------------------------|
| 標 題   | 秋作ラディッキオ初収穫、球太りまずまず   |  | 機関名           | 八幡浜支局地域農業育成室<br>大洲農業指導班               |
| 年月日   | 令和5年11月15日  | 場所   | ラディッキオほ場（大洲市） |                                       |
| 指導対象  | ラディッキオ農家（2人）  | 連携機関   | JA 愛媛たいき      |                                       |
| 普及指導内容  | <p>○鮮やかな赤紫色とほのかな苦みが特徴の西洋野菜ラディッキオの収穫が始まった。秋作は17tの出荷を見込み、11月下旬から12月にかけて最盛期を迎える。</p> <p>○高温の影響から定植が遅れ、降水量も少なかったため生育が心配されたが、当班の栽培指導と生産者の適切な管理により、多くが秀品として収穫できている。</p> |  |               |                                       |
| 結果と今後   | <p>○当班では現在、品種や肥効の比較実証に取り組みながら、鳥害・病害虫防除について指導しており、今後、実証結果を関係機関と共有し、大洲喜多地区に適した栽培技術を確立していく。</p> <p>○秋作終了後、次期作は3月末～4月に定植し、5月末～6月にかけて出荷予定。</p>                         |  |               |                                       |
|  |   |  |               | <p>左：ラディッキオの収穫<br/>右：球の大きさ、重さ等を調査</p> |

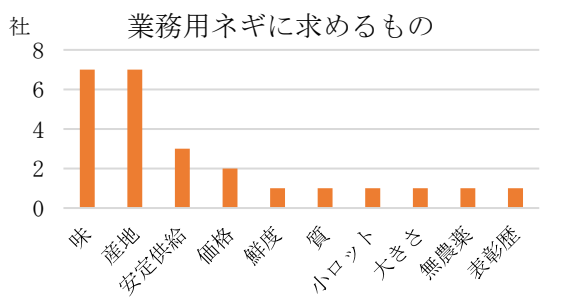

|   |   |   |                                |  |
|---|---|---|--------------------------------|--|
| 標 題   | いちご部会員が天敵防除の知識を深める  |   | 機関名                            | 八幡浜支局地域農業育成室<br>大洲農業指導班                  |
| 年月日   | 令和5年11月24日  | 場所  | (株)Pi-Nokyo たいき                |  |
| 指導対象  | JA 愛媛たいきいちご部会員（27人）   | 連携機関  | JA 愛媛たいき、(株)Pi-Nokyo たいき、農産園芸課 |  |
| 普及指導内容  | <p>○当班では、農産園芸課、民間企業の協力のもと、(株)Pi-Nokyo たいき実証ほ（高設栽培面積：7a）で、難防除害虫ハダニを捕食するチリカブリダニとミヤコカブリダニを放飼し、天敵防除の実証を進めている。</p> <p>○天敵に対する各種知識が不足する部会員及び研修生に対して、第3回大洲いちご IPM プロジェクトチーム検討会を開催し、2種類の天敵の特徴や放飼する際のポイントのほか、害虫密度が低い時期から天敵を維持増殖させることで、害虫の増加に備えることの重要性等を指導した。</p> |   |                                |  |
| 結果と今後   | <p>○この研修において、ハダニ天敵に関する理解が深まったことで、研修生からは「就農時から天敵防除に取り組みたい」との多くの意見が出されるとともに、部会員からも「農薬コストの削減や散布労力の軽減が期待できる」など導入への意欲が見られた。</p> <p>○今後は、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤使用に伴う防除体系を見直す。</p>  |   |                                |  |
|  |   |  |                                | <p>左：放飼状況を確認する研修生<br/>右：実証ほの説明を受ける部会</p> |





|  |   |  |                               |                                       |
|--|---|--|-------------------------------|---------------------------------------|
| 標 題  | 大野ヶ原産「四国カルスト高原にんにく」の魅力<br>を首都圏で PR、販路開拓へ！   |  | 機関名                           | 八幡浜支局地域農業育成室<br>西予農業指導班               |
| 年月日  | 令和5年11月7日～9日  | 場所   | 東京都、群馬県、埼玉県<br>(量販店、市場、種苗会社等) |                                       |
| 指導対象   | 大野ヶ原にんにく組合員   | 連携<br>機関   | (株)祐                          |                                       |
| 普及指導<br>内容   | ○当班では、寒地系にんにくの産地化に向けて、栽培技術指導に加え、販路拡大への取<br>組みを支援しており、今回、首都圏での商談会及び市場調査を実施した。<br>○商談会では、にんにく商品の特徴等を PR するとともに、産地紹介リーフレットを用<br>いて、大野ヶ原地域の魅力等を伝えた。また、市場調査では、店頭に並ぶ商品や消費<br>動向等から消費者が好むにんにく商品について調査した。 |  |                               |                                       |
| 結果と今後  | ○商談の結果、2業者から引き合いがあり、今後、取引開始に向けた具体的な協議を行<br>っていく。また、市場が必要とする商品や規格、効果的な商品 PR の方法について情<br>報を収集した。<br>○今後は、市場調査結果等を踏まえた加工品開発、県外量販店・飲食店等への販路拡大<br>の取組みを支援する。   |  |                               |                                       |
|  |   |  |                               | <p>左：販売に係る商談<br/>右：商品（にんにく）販売状況調査</p> |

|   |   |   |        |                                      |
|---|---|---|--------|--------------------------------------|
| 標 題   | 西予市で地産地消を考えるフェスタを開催   |   | 機関名    | 八幡浜支局地域農業育成室<br>西予農業指導班              |
| 年月日   | 令和5年11月13日  | 場所  | 西予市宇和町 |                                      |
| 指導対象  | 西予生活研究協議会員、学校給食・<br>直売所関係者等（49人）  | 連携<br>機関  | 西予市    |                                      |
| 普及指導<br>内容  | ○郷土料理の伝承や地産地消を推進するため、食農教育連携会議と併せて「グリーンフ<br>ェスタ 2023」を開催した。<br>○地域産物を活用した郷土料理の弁当試食、学校給食における地産地消についての講演<br>(東温市学校給食センター 坂田栄養教諭)の後、西予市で取組みを進めたい地産地消<br>活動について意見交換し、意識の醸成と食農教育への連携強化を図った。 |   |        |                                      |
| 結果と今後   | ○参加者からは「西予の農産物をもっと学校給食で活用できる仕組みづくりを検討した<br>い」といった意見が出されるなど、地元の食について議論する良い機会となり、地産<br>地消の重要性を共有した。<br>○当班では、今回の意見を取りまとめ、今後の取組みに反映するよう指導していく。   |   |        |                                      |
|  |   |  |        | <p>左：坂田教諭による講演<br/>右：班に分かれての話し合い</p> |

|            |  |   |  |                         |
|------------|--|---|--|-------------------------|
| 標 題        | 四国カルスト高原にんにく体験交流会 in 大野ヶ原！～次代の担い手の確保に向けて～  |   | 機関名  | 八幡浜支局地域農業育成室<br>西予農業指導班 |
| 年月日        | 令和5年11月14日   | 場所  | 西予市野村町大野ヶ原                                     |                         |
| 指導対象       | 野村高校生、大野ヶ原小学校児童、<br>大野ヶ原にんにく組合（22人）  | 連携<br>機関  | （株）祐、西予市                                       |                         |
| 普及指導<br>内容 | <p>○大野ヶ原にんにくの産地化推進の一環として、将来の担い手として期待される地元高校生及び小学生を対象に、植え付け体験等の交流会を開催した。</p> <p>○交流会では、にんにく栽培への理解を深めるため、種球の植え付けを行うとともに、今年度整備した種子割り機と選別機による作業を体験した。また、交流活動を通じて開発を進めているBBQソースやみそだれ等の加工品を試食した。</p> |   |  |                         |
| 結果と今後      | <p>○生徒からは「種子割り機があれば作業時間の短縮や省力化につながる」などの意見が出され、体験を通じて生徒の理解を深める良い機会となった。</p> <p>○今後は、今回のアンケート調査等の結果を基に加工品開発を進めるほか、引き続き同組合と連携し、植え付けから収穫までの機械化一貫体系の確立を図るとともに、新規生産者確保のための環境づくりの支援にも取り組む。</p>        |   |  |                         |
|            |   |  | <p>左：小学生がにんにくの種球を植え付け<br/>右：高校生が開発した加工品を試食</p> |                         |

|            |  |  |                  |              |
|------------|--|--|------------------|--------------|
| 標 題        | 商談会で青ネギの需要動向を調査  |  | 機関名              | 八幡浜支局産地戦略推進室 |
| 年月日        | 令和5年11月14日～15日   | 場所   | 福岡県福岡市（マリンメッセ福岡） |              |
| 指導対象       | （株）百姓百品村   | 連携<br>機関   |                  |              |
| 普及指導<br>内容 | <p>○当室で産地化を支援している青ネギは、全国に販路を有しているが、物流の2024年問題等への対策から、近隣県の新たな販路を開拓することが課題となっている。</p> <p>○関係者と協議を重ねた結果、実需者が業務用ネギに求めるニーズを的確に把握するため、（株）百姓百品村が参加する商談会（FOOD STYLE Kyushu）に同席し、青ネギの需要動向調査を実施した。</p> |  |                  |              |
| 結果と今後      | <p>○業務用ねぎに求められるものは、味と産地（国産含む）が最も多く、安定供給、価格等の順となった。</p> <p>○今後、良食味かつ夏場の収量改善対策として検討している保水剤利用による新たな栽培技術も含めて、引き続き支援していく。</p>   |  |                  |              |
|            | <p>社</p> <p>業務用ネギに求めるもの</p>  <p>需給動向調査結果（抜粋）</p>  |  <p>商談会（FOOD STYLE Kyushu）（株）百姓百品村</p> |                  |              |

|   |   |   |                  |                     |
|---|---|---|------------------|---------------------|
| 標 題   | 環境モニタリングについて学ぶ  |   | 機関名              | 農産園芸課<br>高度普及推進グループ |
| 年月日   | 令和5年11月15日  | 場所  | 農林水産研究所          |                     |
| 指導対象  | JA 営農指導員、普及指導員等 (46人)   | 連携機関  | JA 全農えひめ、農林水産研究所 |                     |
| 普及指導内容  | <p>○環境モニタリングによる「見える化」や環境制御技術等について協議し、施設野菜の収量向上に向けた指導員の技術力向上を図るため、野菜調査研究会を開催した。</p> <p>○県内での環境モニタリング事例報告や、取得したデータの活用方法等について意見交換を行った。</p> |   |                  |                     |
| 結果と今後   | <p>○参加者からは「ハウス内環境の『見える化』により、設定値と現状値が違うことが分かった。早速指導に活かしたい」との意見が聞かれた。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、環境モニタリングについて支援を行うとともに、取得したデータ分析の活用に取り組む。</p>    |   |                  |                     |
|  <p>「見える化」について学ぶ</p> |   |  <p>気温を正確に測定する通風式装置</p> |                  |                     |

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

| 機関名                                       | 所在地および連絡先  |
|---|--|
| 東予地方局農林水産振興部<br>農業振興課                     | 西条市丹原町池田 1611<br>TEL:0898-68-7322<br>FAX:0898-68-3056    |
| 東予地方局農林水産振興部<br>農業振興課地域農業育成室<br>四国中央農業指導班 | 四国中央市中之庄町 1684-4<br>TEL:0896-23-2394<br>FAX:0896-24-3697 |
| 東予地方局農林水産振興部<br>今治支局<br>地域農業育成室・産地戦略推進室   | 今治市旭町 1-4-9<br>TEL:0898-23-2570<br>FAX:0898-22-9724      |
| 東予地方局農林水産振興部<br>今治支局地域農業育成室<br>しまなみ農業指導班  | 今治市伯方町木浦甲 4637-3<br>TEL:0897-72-2325<br>FAX:0897-72-1912 |
| 中予地方局農林水産振興部<br>農業振興課                     | 松山市北持田町 132<br>TEL:089-909-8762<br>FAX:089-909-8395      |
| 中予地方局農林水産振興部<br>農業振興課地域農業育成室<br>久万高原農業指導班 | 上浮穴郡久万高原町入野 263<br>TEL:0892-21-0314<br>FAX:0892-21-2592  |
| 中予地方局農林水産振興部<br>農業振興課地域農業育成室<br>伊予農業指導班   | 伊予市市場 127-1<br>TEL:089-982-0477<br>FAX:089-983-2313      |
| 南予地方局農林水産振興部<br>農業振興課                     | 宇和島市天神町 7-1<br>TEL:0895-22-5211<br>FAX:0895-22-1881      |
| 南予地方局農林水産振興部<br>農業振興課地域農業育成室<br>鬼北農業指導班   | 北宇和郡鬼北町興野々 1880<br>TEL:0895-45-0037<br>FAX:0895-45-3152  |
| 南予地方局農林水産振興部<br>農業振興課地域農業育成室<br>愛南農業指導班   | 南宇和郡愛南町城辺甲 2420<br>TEL:0895-72-0149<br>FAX:0895-73-0319  |
| 南予地方局農林水産振興部<br>八幡浜支局<br>地域農業育成室・産地戦略推進室  | 八幡浜市北浜 1-3-37<br>TEL:0894-23-0163<br>FAX:0894-23-1853    |
| 南予地方局農林水産振興部<br>八幡浜支局地域農業育成室<br>大洲農業指導班   | 大洲市田口甲 425-1<br>TEL:0893-24-4125<br>FAX:0893-24-5284     |
| 南予地方局農林水産振興部<br>八幡浜支局地域農業育成室<br>西予農業指導班   | 西予市宇和町卯之町 3-434<br>TEL:0894-62-0407<br>FAX:0894-62-5543  |